

高年大学「専門講座」

先日、正式には名古屋市高年大学鯉城学園「専門講座」の講師を2回担当した。鯉城学園は1986年に開学し、現在は名古屋市社会福祉協議会が指定管理者となっている。現在、10専攻、16クラス、定員760名であり、担当したのは「地域専攻」2クラス（1クラス50名弱）である。写真に撮った掲示板にあるように、ずっしりと「時間割」が組まれている。



退職前に引き受けていた講座であり、パワーを入れてパワーポイントを準備した。「名古屋のまちづくりと都市魅力」というテーマで90分話した。久しぶりの講義であり、最初はいくぶん緊張したが、すぐにいつもの調子が出てきた。とくに2回めはリラックスして話せた。講義後の拍手もかなり多かった。



まず「自己紹介にかえて」として、大学時代のことなどを最終講義の思い出を含めて、じっくり語った。『名古屋の観光力』と『災後の新聞』を宣伝を兼ねて紹介した。反応はいまひとつだったが、次に講座のテーマについて、足もとから現代社会と地域、とりわけ名古屋という大都市を「都市魅力」の視点から考えたいと述べた。

講義は、「まちづくり」と「都市魅力」を概観して、戦後名古屋のまちづくりを振り返り、今後の課題について問題を提起した。資料として、名古屋市次期総合計画に関するアンケート調査結果報告書の「都市の個性と魅力について」の一部を縮小コピーした。これをもとに「名古屋は若い世代が訪れたいと思う魅力的なまちだと思いますか」について挙手を求めると、そう思うと回答した人はほんの数人だった。ここから、なぜ名古屋は魅力に欠けるのかと話を展開していった。

一番うけたのが、大学の講義でも使った「名古屋の100年」という映像であった。戦後編をほんの一部だけ流したのだが、皆さんが体験された歴史でもあり、画面に集中していた。映像の途中でストップすると「ブーイング？」が起こったが、今日は私の話がメインだと釘をさした。まさに「映像はエイゾー」を実感した。

2回目の講義後、高山出身の方が話に来られた。松倉中学と斐太高校の卒業であり、私より2歳若いという。まさかと驚いたが、昔を思い起こして嬉しかった。熱心に受講してもらい、なにより「ダジャレ」が大うけだったので疲れも吹っ飛んだ。

(2014年12月14日)